

FP Topics

=がん保険について=

2023年12月号

=One's impressions=

早くも師走が訪れました。年々時間の経過が早くなるように感じるのは、私だけではないかも知れません。私事ですが、今年は大病を得ていろいろな事を考える、考え直す年になったと思います。

やはり、人生観は大きく変わったと言っても過言ではありません。

私の場合、“がん”ではありませんでしたが、良性脳腫瘍というシビアな病気でした。

私自身が個人事業主という立場上、医療保険は手厚く付保していたこともあり、休業補償という意味では大いに助かりました。しかし、ライフ・リタイアメントプランニング相談の現場では、労働環境や家族構成等を踏まえ、保険に関しては消極的な立場をとっています。キャッシュフロー上、保険に関する支出は人生の3大資金（教育・住宅・老後）について、大きな支出になるからです。

医療保険やがん保険の必要性等については、賛否両論です。緊急事態が出来た際、潤沢にお金があれば保険は必要ないのです。しかし、いろいろな考えがあると思われまますので、今回は“がん保険”の基本的な考え方について特集してみたいと思います。

=がん医療の現状=

“がん”は40年以上、日本人の死因第一位として君臨しています。一生のうち、2人に1人が“がん”と診断されるといわれています。現在はがんに罹患すること、イコール死に直結する時代ではありません。しかし、がんは転移や再発のリスクがあり、仕事や日常生活を送りながら長く治療を続けることもあります。仕事の両立など治療費の費用負担は考える必要があるようです。



=がん保険の基本的な保障等=

現在のがん保険の主体は、生存を前提としたがん治療に備えるものが中心となっています。

基本ながん保険の保障内容です。

保障のタイプ	・一時金重視 ・治療給付金重視 ・両方の併用型
診断給付金	診断書の確認で給付
診断給付金 (2回目以降)	診断書の確認、入院通院、在宅治療再発、転移など様々な要件あり
上皮内がんの対応	あり
入院給付金	あり
通院給付金	退院後の通院、入院の有無を問わず所定の三大治療※の通院など
所定の自由診療	あり
先進医療特約	あり
その他の特約等	所得の補填、がんリスク検査 など

※がんの三大治療

・外科治療（手術）・放射線治療・抗がん剤治療
最新の医療では、第四の治療法として免疫療法がある。

多くのがん保険が発売されており、その内容も過去の保障内容と比較して大きく変化しているようです。以前のがん保険の保障内容は診断給付金と入院給付金（無制限）を重視するものが多くみられました。

現在のがん保険では、上記の内容に加えてがんの転移や再発などに対応した商品も多くみられます。

以前は、上皮内がんに対応しないものがほとんどでしたが、現在では対応している保険も多くあります。ほとんどのがん保険では、診断給付金（一時金）も複数回支払われるようです。2回目以降の給付については保険会社によってその要件は様々です。



最新のがん保険は、保障内容の移り変わりが激しくなっています。過去のがん保険も、その加入時期によって保証は様々です。

がん治療は最新の医療が導入され、日進月歩の勢いで進化しています。

加入されているがん保険が最新の医療に対応できるものなのか？十分な保障が付保されているのか？他の医療保険と重複している部分はないのか？など、一度見直してみる必要はあると考えられます。将来変わっていく治療に対応できるか否かが重要になっています。

がんは不治の病では無くなりつつあり、長い闘病生活も考えられます。その際の収入減を避けることは難しく、最近のがん保険は、その収入減に対応した保険もあります。検討してみるのも良いのではないのでしょうか。

＝実際に大病を得て思う事＝

今年は予期せぬ大病を得て大変な一年となりました。良性の脳腫瘍というシビアな病気でした。自覚症状がでてから、病名が確定するまで3ヵ月ほどはかかったと思います。病気が病気だけに手術が必要なことは動かしようのない事実でした。自分自身の決断は早かったと思います。

病気を心配するよりも、各所にできるだけ迷惑を掛けないようにすることに気を使いました。ですが、入院手術となると個人事業主の身では収入減は避けられません。何の保証もない状態ですので、厚めに手当てしていた医療保険は大いに助かりました。

私の場合、診断書に悪性新生物という記載がないため、がん保険の適用はありませんでした。心臓病や脳梗塞といった生活習慣病の適用もなく、ちょっと不公平な気もしましたが、そういうものかと今回はたいへん勉強になりました。

完治には時間がかかるようですが、どこにも機能障害もなく生還できたことは、たいへんありがたく思います。



大きな吊り橋のほとりの、小さな酒屋さんでビールを調達し、バス停まで歩きます。バス停まではほんの100mほど、下市口駅行きのバスはすぐに来るはず。すぐとはいっても小一時間はあります。山歩きの時間感覚は下界のそれとは違うのです。

山歩きあるあるですが、ヒーヒー言いながら歩いていて、頂上近くに達すると、すれ違う人に『頂上まであとどれくらいですか？』って尋ねるのです。返ってくる答えは『もう少しだから頑張っ～！』です。これを信じてはいけません・・・山のもう少しは違うのです。これを信じて何度失望したことでしょうか(>_<)

道路を挟んだ正面に公共の観光案内所があります。周辺の名所を案内してくれるようです。初めて営業時間内に訪れます。興味津々で案内所内を物色しますがあまりピンときません・・・案内所の外にベンチが設置してあります。遙か眼下の川床を眺めながらビールを飲むことにしました。

お昼前、この時間に山登りに向かう人はいません。平日ですので観光客もいないようです。閑散としていますが、バス通りは車が頻繁に走っています。車の人たちは、この田舎道をどこに向かって、何の用事があって同じ方向に走っているんだろう？ぼんやりと物思いに耽っていました。

大都会や高速道路などでも、沢山の人や車が同じ方向に大移動し、長時間にわたって渋滞していることを常々不思議に感じていることなど、この先の自分の生き方等を重ねてぼんやり考えていると、もうバスがやってくる時間です。

